

🍷 9月の行事予定 🍷

1	水	始業式 下校 11:20	16	木	まゆの糸取り体験(3)
2	木	給食始 午前授業 オンライン授業 (3~6) 14:00~14:45	17	金	避難訓練 ALT
3	金	午前授業 オンライン授業 (3~6) 14:00~14:45	18	土	土曜授業 水道キャラバン(4) 下校 11:20
4	土		19	日	
5	日		20	月	敬老の日
6	月	5時間授業 移動教室説明会(5,6)14:40~	21	火	夏休み作品展終
7	火	身体計測 (か)	22	水	理科出前授業(6)
8	水	夏休み作品展始 身体計測(1,2) せいび教室指導始	23	木	秋分の日
9	木	安全指導 身体計測(3,4)	24	金	ALT
10	金	身体計測(5,6)	25	土	
11	土		26	日	
12	日		27	月	
13	月	委員会活動(5,6) 都学力調査(4,6)2w	28	火	社会科見学(4)
14	火	伝統文化「狂言」(6) 都学力調査(5) 巡回心理士来校	29	水	午前授業
15	水	午前授業	30	木	にっこりタイム 宿泊前検診(5,6)



※夏休み作品展は、児童の鑑賞のみとします。保護者の参観はできません。ご了承ください。

今月のオリンピック・パラリンピック教育

9月14日(火) 3・4校時 日本の伝統・文化教育「狂言」本公演(6年生)
公益財団法人 山本能楽堂の方々が体育館を能舞台にし、公演していただきます。

落ち着いて学習に取り組もう

《9月の生活目標》

本日より2学期スタートとなりました。緊急事態宣言が延長され、感染の広がりに予断を許さない中ではありますが、まだまだ、暑い日が続くことも予想されています。

夏休み中は、夜更かしや寝不足、不規則な食事、運動不足など生活リズムが崩れやすくなりがちです。また、外出を控え、冷房の効いた室内で多くの時間を過ごした子供たちも多いのではないのでしょうか。

9月の生活目標は、「落ち着いて学習に取り組もう」です。夏休みが終わり、すぐに学校での生活に合わせようとしても体がうまくついていかず、体調が悪くなってしまうことも多く見られます。できるだけ早く、規則正しい生活リズムを取り戻せるよう、生活のスケジュールを組み立てていただきますようお願いします。

さらに、暑さの中、何よりも心配されるのが、熱中症です。学校でも熱中症の予防には十分努めます。ご家庭でも、前日や朝、登校前の様子をよく観察していただき、お子さんに疲れた様子がないか、具合は悪くないか、確認してください。水筒、汗ふきタオルの持参も引き続きお願いします。

「済美スタンダード」を確認しながら、学習用具の準備や学習規律の徹底をして、万全の体調で、落ち着いて学習に取り組めるよう指導して参ります

(生活指導担当)

学校だより



せいび

令和3年9月 1日

杉並区立済美小学校

校長 難波 誠二

…済美小学校の大事なひとりになろう…

〒166-0013 杉並区堀ノ内 1-17-24 Tel 03-3313-2364 FAX 03-3313-8634

<http://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/>

東京 2020 からの学び

校長 難波 誠二

1年の延期を経て東京2020オリンピックがこの夏に開催されました。夏休み中の自国開催ということもあり、画面越しに繰り広げられるアスリートの熱い戦いに、多くの子供たちが魅了されたのではないのでしょうか。

今大会では、多くのメダリストが誕生しましたが、特に印象に残ったのは、アーバンスポーツと呼ばれるスケートボードなど新競技での若い力の躍進です。純粹に競技を楽しむ姿に悲壮感はなく、お互いの素晴らしいパフォーマンスには、惜しめない賛辞を贈り称え合う姿が見られました。10代のメダリストからは「まったく緊張しなかった。すごく楽しかった。」「ライバルではなくみんな友達です。」と言った声も聞かれ、スポーツの語源である「遊ぶ」「楽しむ」という本来の姿を私たちに教えてくれたようにも感じました。

また、報道では、とにかくメダル獲得が大きく取り上げられますが、勝ち負けやメダルの有無にかかわらず、この日へ向け計り知れない努力を積み重ね、全力で競技に取り組んだアスリートの姿は、私たちに多くの感動を届けてくれました。最後まであきらめずに挑戦する姿勢、様々なスポーツの魅力や奥深さ、国を超えた選手同士の友情、自分を支えてくれた方々への感謝の言葉など、数々のシーンに心を動かされた貴重な17日間でした。

さて、8月24日からはパラリンピックが開催されています。パラリンピックの日本選手結団式では、主将を務める車いすテニスの国枝慎吾選手が「人間の無限の可能性を感じてもらえることを願いたい。」、旗手を務めるパラトライアスロンの谷真海選手は「困難があっても踏み出す力、生きていく中での大事なヒントを感じてほしい。」と述べていました。パラリンピックにはパラアスリートの姿を目の当たりにすることで、多様な価値を認め合い共生社会の実現につなげるという理念があります。今大会を通して、パラアスリートが限界に挑戦し躍動する姿だけでなく、パラスポーツが誰もが親しめるよう様々な障がいの種類と程度によりクラス分けされていること、選手の大会参加に向けて多くの人々が様々な場面で支えていることなどにも目を向けてほしいと考えます。偏見のないバリアフリーな社会の実現に向けて子供たちに新しい価値観が生まれていくことを期待しています。

本校は、今年度、パラリンピック競技「ボッチャ」応援校に選ばれ活動を進めています。一昨年から「ボッチャ」を児童の交流活動に取り入れ、全校児童でのボッチャ大会開催やクラブ活動での「ボッチャクラブ」新設を進めてきました。今年度も1学期には中・高学年の大会を開催し、31チーム152名の児童により熱戦が繰り広げられました。特に今年度は大会運営を手伝う高学年児童を募集し、5・6年生13名が審判や得点、記録係としてトーナメントの運営を進めてくれました。また、7月にはボッチャ協会からの

依頼を受け、ボッチャ日本代表チーム「火ノ玉 JAPAN」を応援する動画メッセージを作成し、代表チームの壮行会で上映されました。学年の枠を超えて誰もが楽しめる「ボッチャ」を通して、子供たちがパラスポーツに興味を持ち、パラリンピックの理念の実現に少しでも近づいてくれることを願います。【ボッチャ大会運営係の5・6年児童】

